

愛知県歯のマウスガード普及活動

愛知県歯科医師会

専務理事 坂井 剛

本会のスポーツ歯学に関する活動は平成7年、愛知県スポーツ医・科学研究所に歯科室を設置することから始まった。目的はそこを利用するスポーツ選手の歯科診療、咬合と運動能力に関する研究及びマウスガードによるスポーツ外傷の予防に関する調査等を行いそこから会員の診療に役立つ情報を発信することであった。しかし我々が欲しい情報は思うように得られず、研究と臨床を直結する為には会としての事業化が必要と考え、平成10年にSHP(スポーツ・ヘルスプロモーター)協議会を立ち上げ、マウスガード(MG)の普及活動に乗り出した。それから3年、現在500名余の会員を擁し、MG製作研修会と対外PR活動を盛んに行っている。

SHP協議会の活動は次の3つ基本方針のもとに進められている。

1. MGを作れる医院をできるだけ増やす。
2. MGの有用性を社会的に認知させる。
3. MGに関する研究を支援する。

21世紀の日本は健康日本21計画に沿って、スポーツや健康づくりが益々盛んとなり、MGの必要性は高まると思われる。対応できる医院の増加が急務であり、8020を提唱する以上、健康な歯をスポーツ外傷で失うことのないよう、安全にスポーツを楽しめる様に支援することが学術専門団体としての歯科医師会の社会的責務である。当然、MGの脳震盪を予防する効果や種目別の適切な材料や設計に関する研究を支援し、その成果を臨床に取り入れる等の組織的活動が大変重要である。

現在、スポーツ歯科医学の専門研究室を設置しているのは東京歯科大学だけであり、他は補綴や矯正の専門家が片手間に十分な研究費もなくMGの研究をしている状況である、学術的情報を必要としている歯科医師会が研究助成を行うことはやむをえない事と思われ

る。一方で成長期にある子供達がスポーツ用品店でMGの材料を買い、自分で作る等の現状がある。専門教育中でのスポーツ歯科医学の位置づけと同時にMGの医療用具としての認可や学校保健中でのMGの義務化、更に学校安全会の見舞金をMG作成の助成に使えるようにする等の制度的な対応が急がれる。又スポーツ歯科医学はまだ若い成長期の学問であり、これを大切に育てたいと考えている。

於：中野区歯科医師会

略 歴

サカイタケシ
坂井 剛

昭和15年7月10日生

昭和40年	東京歯科大学卒
昭和46年	名古屋市内で開業
昭和47年	名古屋市立八事小学校校医（19年間）
昭和63年	愛知県歯科医師会専務理事（現）
昭和63年	日歯、需給問題対策委員会副委員長
平成3年	日本歯科医師会代議員（現）
平成6年	日歯、8020運動推進委員会副委員長
平成9年	日歯、地域保健委員会委員長
平成11年	日歯、8020推進財団準備委員
平成12年	SHP協議会会長